

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第33号
文責 校長 西村羊治
令和7年8月29日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

～当たり前のことをきちんとやる人材育成をととして～

前期後半スタート！

夏休みも終わり、本日8月29日（金）より前期後半がスタートしました。暑い日がまだまだ続きますが、夏休みの生活から少しずつ学校生活にライフスタイルをスライドさせて、「早寝・早起き・朝ご飯」を実践継続して欲しいと思います。

「さあ、いかがだったですか？夏休み」私は、夏休み前に「命」を守ること、「お手伝い」をすることをお願いしました。命を守る行動、そして各家庭でのお手伝い、いかがだったでしょうか。今後も継続して自他の命を守り、家庭での役割を果たして欲しいと思います。前期後半は、1ヶ月半ぐらいしかありません。その期間で前期のまとめや後期に向けての目標を考えてみてはどうでしょうか。ただ単に過ごすのではなく、今日があることが当たり前ではなく、有り難いこととして大切に過ごし、「成長」に繋げて欲しいと思います。前期後半における三角小137名全員の「成長」を期待します。

校長の私は、ちょうど1年前、右肩の手術で入院していたので、治療に専念することが目標でした。右肩の手術だったので、利き腕の右手が使えません。食事も左手でしなければなりません。左手で箸を使うのはとても難しく、すくうのが精一杯だったことを覚えています。しかし、よくしたもので、左手での食事をすればするほど要領を得て、少しずつですが上手になっていったのです。習うより慣れろ、継続は力なり等の言葉がありますが、まさしくそう思いました。今年の夏は、術後一年の経過観察で右肩のレントゲン写真を撮りました。主治医から「順調です」とのお墨付きをいただき、右肩のストレッチをがんばりました。

今年の夏、海や川の事故で若い命が奪われ、先日はビル火災による前途ある消防士の悲しい死亡事故がありました。今後も三角小学校の子どもたちには、心身共に健康であることの大切さを訴え続け、自他の「命」を守る教育を継続します。前期後半も一緒に楽しんでいきましょう！

マスコミの方に感謝

右の記事は、8月20日の熊日日新聞に掲載された記事です。宇城支局の清島様が執筆してくださいました。6年生の合唱の練習風景ですが、子どもたちの「三角を盛り上げたい」という気持ちに賛同くださり、文末には「記者も市全体が活性化する道を探りたい。」と書いてくださってます。とてもありがたく嬉しく思いました。人口減少が全国で大きな課題となっている中、この様に行動できる子どもたちを誇りに思います。

宇城市立三角小学校の宝である 子どもたちと職員



記者日記

歌で三角盛り上げたい

宇城市三角町の三角小が、第92回NHK全国学校音楽コンクールの熊本県コンクールに初挑戦した。出場した6年生33人は「良い成績を残すことで、過疎化が進むふるさとを再び盛り上げたい」との強い思いで大舞台に立った。

三角町は人口減少が顕著

だ。本年度の三角小の全校児童は5年前より57人減り、137人となった。児童らは「寂しい。何とか町の人口を増やしたい」との思いから自分たちにできることを考え、得意の合唱で町を元気にしたいとコンクール出場を決めた。

5日の本番の前日、夏休み返上で練習に励む様子を見せてもらった。パートごとと全体の練習を繰り返し、休憩時間も歌い続ける児童もいた。自由曲に選んだのはアイ

ドルグループ嵐の「ふるさと」。児童の一人は「町の豊かな自然を思い浮かべて歌う。三角はすごい所なんだと知ってもらいたい」と意気込んだ。

結果は銅賞。目標の頂点には届かなかったが、わが町を何とかしたいという33人の思いは歌声にのり、大人たちの胸を打った。子どもたちの熱意に負けないよう、記者も市全体が活性化する道を探りたい。

(清島理紗)



夏休み返上で合唱の練習に励んだ
三角小6年生14日、宇城市